



## 模擬試験

2026 年 04 月版





Copyright © EXIN Holding B.V. 2026. All rights reserved.

EXIN® is a registered trademark.

SIAM™ is a registered trademark.

VeriSM™ is a registered trademark of EXIN.

EXIN SIAM™ Foundation based on the Scopism SIAM BoK V3 is based on the Scopism SIAM Body of Knowledge.

No part of this publication may be reproduced, stored, utilized or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, or otherwise, without the prior written permission from EXIN.





# 目次

はじめに	4
模擬試験	5
解答集	15
評価	35



## はじめに

これは EXIN SIAM™ Foundation based on the Scopism SIAM BoK V3 (SIAMFV3. JP) のサンプル試験です。この試験は EXIN 試験の規則および規定を適用します。

本試験は選択式の問題が 40 問で構成されます。特に明記しない限り、各問題には、選択肢が複数ありますが、そのうち正解は 1 つのみです。

この試験で取得できる最大点数は 40 点です。各正解には 1 点の価値があります。試験に合格するには 26 点以上が必要です。

本試験の制限時間は 60 分です。

ご健闘をお祈りいたします。

## 模擬試験

1 / 40

SIAMの完全な価値を得ることができない**可能性がある**組織は、次のどれですか？

- A) 社内外のサービスプロバイダが混在する組織
- B) 利用しているサービスプロバイダーが1社だけの組織
- C) 外部サービスプロバイダのみを利用する組織
- D) 内部サービスプロバイダのみを利用する組織

2 / 40

SIAMによって顧客組織が注力するポイントがどのようにより明確になりますか？

- A) サービスプロバイダの調整を委託しながら、顧客組織が中核業務に集中できるようにする
- B) 顧客組織が複数のサービスプロバイダにまたがるすべてのテクノロジー実装を直接管理できるようにする
- C) サービスプロバイダ管理に関する専門知識の習得を顧客組織に要請する
- D) すべての技術的サービスデリバリ活動を詳細に監督できるよう、顧客組織をサポートする

3 / 40

データや情報の標準に関する要因が含まれる、SIAMの推進要因グループは、次のどれですか？

- A) 外部推進要因
- B) 運用効率
- C) サービスとソーシングの状況
- D) サービス満足度

4 / 40

SIAMエコシステムにおけるサービスプロバイダの責任は何ですか？

- A) デリバリ
- B) エンドツーエンドの統合
- C) ガバナンス
- D) 戦略

5 / 40

エンドツーエンドの保証を実行するSIAMエコシステムの階層は、次のどれですか？

- A) 顧客組織
- B) リティンドケイパビリティ
- C) サービスインテグレータ
- D) サービスプロバイダ

6 / 40

ある組織がSIAMへの移行を検討しています。サービスプロバイダからサービスインテグレータが偏っている（バイアスがある）と非難される事態を避けたいと考えています。

このような振る舞いが最も起こりにくいのは、どの2つの構造ですか？

答えを2つ選んでください。

- A) 外部サービスインテグレータ
- B) ハイブリッドサービスインテグレータ
- C) 内部サービスインテグレータ
- D) サービスインテグレータとしてのリードサプライヤ

7 / 40

ハイブリッド型サービスインテグレータの構造において、コラボレーションしてサービスインテグレータの能力を提供する2つの組織は、次のどれですか？

- A) 顧客組織と外部組織
- B) 顧客組織と内部サービスインテグレータ
- C) 外部サービスインテグレータとリードサプライヤ
- D) 内部サービスインテグレータとリティンドケイパビリティ

8 / 40

SIAMの計画と構築段階を開始する2つのきっかけは何ですか？

答えを2つ選んでください。

- A) サービスインテグレータの任命
- B) ビジネスケースの概要の承認
- C) ディスカバリと戦略段階の完了
- D) 完全なビジネスケースの承認

9 / 40

ある顧客組織は実装段階にあり、SIAMモデルの実装を可能な限り短期間に完了したいと考えています。この組織はリスクを取る用意があります。

この目標を達成するために、この顧客組織は何をすべきですか？

- A) サービスプロバイダを早期に指定する
- B) 組織的なチェンジマネジメント（OCM）を実装する
- C) ビッグバンアプローチを採用する
- D) 段階的な実装を用いる

10 / 40

SIAMの運営と改善段階からの2つのアウトプットは、次のどれですか？

答えを2つ選んでください。

- A) 通常業務レポート
- B) コミュニケーション計画
- C) モデルを強化するための情報
- D) プロジェクトのタイムライン

11 / 40

役割と責任に関する原則と方針は、SIAMロードマップのどの段階で定義されるべきですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

12 / 40

利用可能なテクノロジーやサービスについて理解するのは、SIAMロードマップのどの段階ですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

13 / 40

SIAMモデルの要件設計が含まれるのは、SIAMロードマップのどの2つの段階ですか？

答えを2つ選んでください。

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

14 / 40

実装段階を開始する2つのトリガーは、次のどれですか？

答えを2つ選んでください。

- A) 既存のサービスプロバイダの営業停止
- B) 既存のサービスプロバイダの契約終了
- C) 新しいSIAMモデルの実装
- D) 実装アプローチの選択

15 / 40

組織的なチェンジマネジメント（OCM）を開始するのは、SIAMロードマップのどの段階ですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

16 / 40

あるホスティングサービスのプロバイダは、エンドツーエンドの全サービスに影響を及ぼすインシデントを繰り返し経験しました。サービスインテグレータによって、他のサービスプロバイダの情報を活用できるようになり、このプロバイダは根本原因を恒久的に解決するイノベーションを開発できました。

この成果に対して報われるのは誰ですか？

- A) すべてのサービスプロバイダとサービスインテグレータ
- B) すべてのサービスプロバイダ（サービスインテグレータは除く）
- C) ホスティングサービスのプロバイダのみ
- D) サービスインテグレータのみ

17 / 40

サービスガバナンスと保証に対して（最終的な）責任を負うのは、通常どのSIAMの役割ですか？

- A) 顧客組織
- B) 統合変更諮問委員会
- C) サービスインテグレータ
- D) サービスプロバイダ

18 / 40

SIAMモデルのどの役割を外部調達するのかを決めるのは誰ですか？

- A) 顧客組織
- B) 外部サービスプロバイダ
- C) 内部サービスプロバイダ
- D) サービスインテグレータ

19 / 40

契約管理に対して説明責任を負うのは、どの役割ですか？

- A) 顧客組織
- B) 取締役会
- C) サービスインテグレータ
- D) 戦術委員会

20 / 40

単一の構造要素が対応するのは、何ですか？

- A) 1つの組織に1つの階層
- B) 複数の組織における1つの階層
- C) 1つの組織における複数の階層
- D) 複数の組織における複数の階層

21 / 40

重大インシデントの解決から得られた教訓について話し合う責任を負う運用上の役割はどれですか？

- A) インシデント管理プロセスフォーラム
- B) インシデント管理ワーキンググループ
- C) 統合変更諮問委員会
- D) 重大インシデントワーキンググループ

22 / 40

機能横断型チームの管理に関する**主な**課題は、次のどれですか？

- A) 相反する目標、組織戦略、作業の進め方
- B) プロセス活動間のギャップ
- C) エンドツーエンドのワークフローをマッピングできない
- D) アーキテクチャの欠如

23 / 40

機能横断型チームを管理するときにコミュニケーション計画が提供するのは何ですか？

- A) すべての関係者に対する適切なレベルの定期的なコミュニケーション
- B) 仮想チーム間の対面ミーティングが不要になる
- C) データの再入力と変換の必要性の減少

24 / 40

サービスプロバイダ間でプロセスを統合する場合、プロセスフローのギャップを特定し、回避するために何を使用しますか？

- A) DevOps
- B) 重要業績評価指標 (KPI)
- C) RACIマトリクス
- D) サービスレベルアグリーメント (SLA)

25 / 40

SIAMエコシステムにおけるエンドツーエンドの測定の例は、次のどれですか？

- A) 特定のサービスインテグレーションパートナーによる問題解決までの平均時間
- B) 内部サービスプロバイダと外部サービスプロバイダの比較
- C) 特定の事業部門から報告されたインシデントの件数
- D) サービスレベル目標に対するサービスの対応の速さ

26 / 40

ツール戦略の策定については、いくつかの推奨事項があります。

サービスインテグレータとサービスプロバイダが、SIAMツールセットを進化させる方法を理解するのに役立つのは何ですか？

- A) 共通のデータディクショナリの採用
- B) 業界標準の方法
- C) データとツールセットの所有権
- D) テクノロジー戦略とロードマップ

27 / 40

ツール戦略を策定する場合の技術的プラクティスに関連する課題ではないのは、次のどれですか？

- A) プロセス活動間のギャップ
- B) 効果が低いレガシーツール
- C) 統合されていないツールセット
- D) ツールセットの範囲の定義

28 / 40

SIAMと他のサービスマネジメントプロセスはどのように関連していますか？

- A) 他のサービスマネジメントプロセスの成果は、SIAMプロセスの成果とは異なり、別の洞察を提供する。
- B) 他のサービスマネジメントプロセスは、適応させることなくSIAMエコシステムで使用できる。
- C) SIAMは、他のサービスマネジメントの要素を基礎として構築され、それらを拡張するものである。
- D) SIAMは他のサービスマネジメントプラクティスに代わるものであるため、そのプロセスは一切使用しない。

29 / 40

SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通する検討事項は、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダ全体での解決目標の調整
- B) プロセスがより複雑に見える 可能性がある
- C) データディクショナリ、用語、しきい値の要件

30 / 40

SIAMエコシステムの中でプロセスが通常実行される、最も包括的な範囲は何ですか？

- A) サービスインテグレータと顧客組織の契約で定義された組織のすべての部分にまたがる
- B) 同じSIAM階層の異なる組織間、および異なるSIAM階層の組織間
- C) エコシステム内の各サービスプロバイダのそれぞれの部門内
- D) 社内のIT部門内、および外部サービスプロバイダのIT部門間

31 / 40

変更およびリリース管理プロセスの適切な連携ポイントは、何ですか？

- A) このプロセスは、新しいリリースによってインシデントが発生した場合、構成管理プロセスと連動する。
- B) このプロセスは、既知のエラーが発生し、修正が必要な場合に、インシデント管理プロセスと連携する。
- C) このプロセスは、リリースの監視が必要な場合に、監視とイベント管理のプロセスと連携する。
- D) このプロセスは、大きな変更によって正式なプロジェクト管理活動が必要となる場合にプロジェクト管理プロセスと連携する。

32 / 40

継続的サービス改善プロセスの目的は、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダが継続的サービス改善に貢献することを奨励し、インセンティブを与えること
- B) 継続的サービス改善がSIAMガバナンス委員会の議題に含まれるようにすること
- C) 改善活動のデリバリーを定量化、追跡、管理する一貫した方法を提供すること
- D) SIAMエコシステムのすべての関係者が得た教訓を共有すること

33 / 40

SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通するSIAMの検討事項は、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダとそのサービスの消費者との間に強固な関係を築き、維持すること
- B) プロセスのオーナーシップ、および説明責任と実行責任のレベルを明確化すること
- C) 改善活動のデリバリーを定量化、追跡、管理する一貫した方法を提供すること
- D) プロジェクトを期限内、予算内、そして適切かつ合意された品質レベルで完了させるための体系的アプローチを提供すること

34 / 40

SIAM環境における関係者間で、より強固な関係を構築するのに役立つ戦略は、次のどれですか？

- A) サービスインテグレータに向けた標準化されたエスカレーションパスの作成
- B) 委員会やフォーラムなどのSIAMの構造要素の確立
- C) 顧客組織とサービスインテグレータの双方からの中央コントロールの取得
- D) サービスプロバイダからの月次財務報告の義務付け

35 / 40

SIAMの成功を測定するときの課題によって影響を受けないSIAM階層は、次のどれですか？

- A) 顧客組織
- B) サービスインテグレータ
- C) サービスプロバイダ

36 / 40

ある顧客組織は、データフローとエンドツーエンドのサービスをマッピングすることができず、SIAMエコシステムにおけるセキュリティ範囲を把握できていません。

この問題に直接関係するリスクは、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダは、権限のないデータにアクセスできる可能性がある。
- B) サービスプロバイダはサービス目標を達成できない可能性がある。
- C) SIAMの導入コストが計画よりも高くなる可能性がある。
- D) サービスインテグレータの作業負荷が増加する可能性がある。

37 / 40

顧客組織が保持すべきコントロールとオーナーシップのレベルを定義することは重要です。

これらを決定しないままにするリスクは、次のどれですか？

- A) サービスの障害に対する責任を割り当てるのが難しくなる。
- B) サービスプロバイダがコラボレーションを渋る可能性がある。
- C) サービスインテグレータがその役割を果たせない可能性がある。
- D) SIAMプログラムの成功を測定することができない。

38 / 40

ある顧客組織が、サービスプロバイダに対して非現実的なサービスレベルを設定しています。

これに直接関連するリスクは、次のどれですか？

- A) サービスの障害に対する責任を確保することは難しいかもしれない。
- B) 顧客のデータが危険にさらされる可能性がある。
- C) サービスインテグレータがその役割を果たせない可能性がある。
- D) サービスプロバイダがエコシステムから撤退する可能性がある。

39 / 40

SIAMエコシステムにおいて、サービスプロバイダは新しい働き方に適応する必要があります。

これに関連する文化的な検討事項は、次のどれですか？

- A) 契約と合意を重視するサービスプロバイダのための環境を構築すること
- B) 「サービスインテグレータが指示を出し、意思決定を行い、ガバナンスする自律性を有している」という事実をサービスプロバイダが認識すること
- C) 特定のサービスレベルと目標の達成に注力するサービスプロバイダ

40 / 40

SIAMロードマップの中で、ビジネスケースを構築するという課題による影響を最も早く受ける段階は、次のどれですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

## 解答集

1 / 40

SIAMの完全な価値を得ることができない**可能性がある**組織は、次のどれですか？

- A) 社内外のサービスプロバイダが混在する組織
  - B) 利用しているサービスプロバイダーが1社だけの組織
  - C) 外部サービスプロバイダのみを利用する組織
  - D) 内部サービスプロバイダのみを利用する組織
- A) 不正解。複数のサービスプロバイダを管理しようとしている組織は、SIAMを導入することによって多くの価値を得られるようになります。
- B) 正解。利用しているサービスプロバイダーが1社しかない組織は、SIAMの価値を十分に得られない可能性があります。（参考文献：A、1.3章）
- C) 不正解。外部サービスプロバイダを利用する組織は、SIAMに適しています。
- D) 不正解。内部サービスプロバイダのみを利用する組織は、SIAMに適しています。

2 / 40

SIAMによって顧客組織が注力するポイントがどのようにより明確になりますか？

- A) サービスプロバイダの調整を委託しながら、顧客組織が中核業務に集中できるようにする
  - B) 顧客組織が複数のサービスプロバイダにまたがるすべてのテクノロジー実装を直接管理できるようにする
  - C) サービスプロバイダ管理に関する専門知識の習得を顧客組織に要請する
  - D) すべての技術的サービスデリバリー活動を詳細に監督できるよう、顧客組織をサポートする
- A) 正解。サービスインテグレータは、サービスプロバイダと技術のコーディネーションの管理の責任を引き受けます。これにより、顧客組織はビジネス目標の達成を直接サポートする活動に注力できます。（参考文献：A、1.3章）
- B) 不正解。SIAMは、複数のサプライヤを直接管理する負担を顧客組織から取り除くものであり、直接管理を可能にするものではありません。
- C) 不正解。SIAMは、顧客企業が専門的なサービスプロバイダ管理能力を育成する必要性を低減します。
- D) 不正解。SIAMは、詳細な技術的監督責任を顧客組織に維持させるのではなく、サービスインテグレータに委ねます。

3 / 40

データや情報の標準に関する要因が含まれる、SIAMの推進要因グループは、次のどれですか？

- A) 外部推進要因
- B) 運用効率
- C) サービスとソーシングの状況
- D) サービス満足度

- A) 不正解。外部要因に関係のある推進要因は、コーポレートガバナンスと外部ポリシーです。
- B) 正解。これは運用効率の推進要因グループの4つの要因のうちの1つです。（参考文献：A、1.5.2.3章）
- C) 不正解。「サービスとソーシングの状況」という推進要因グループに含まれる推進要因は、外部ソーシング、マルチソーシング、サービスプロバイダ数の増加、シャドーIT、柔軟性のない契約です。
- D) 不正解。これは、このグループの推進要因ではありません。サービス満足度推進要因グループの要因として、サービスパフォーマンス、サービスプロバイダとのやりとり、役割と責任の明確さ、変更のペースの遅さ、価値の実証、サービスプロバイダ間のコラボレーションの欠如、デリバリのサイロ化などが挙げられます。

4 / 40

SIAMエコシステムにおけるサービスプロバイダの責任は何ですか？

- A) デリバリ
- B) エンドツーエンドの統合
- C) ガバナンス
- D) 戦略

- A) 正解。各サービスプロバイダは、顧客組織に対して1つ以上のサービス、またはサービス要素を提供する責任を負います。契約または合意したサービスの提供のために使用される製品やテクノロジーの管理、および独自のプロセスの運用に責任を負います。（参考文献：A、1.1.1.4章）
- B) 不正解。エンドツーエンドの統合はサービスインテグレータの責任です。
- C) 不正解。ガバナンスは、顧客組織とサービスインテグレータの責任です。
- D) 不正解。戦略は顧客組織の責任です。

5 / 40

エンドツーエンドの保証を実行するSIAMエコシステムの階層は、次のどれですか？

- A) 顧客組織
  - B) リテインドケイパビリティ
  - C) サービスインテグレータ
  - D) サービスプロバイダ
- A) 不正解。顧客組織は、オペレーティングモデルの一部としてSIAMへの移行を進めている顧客です。顧客組織はSIAMエコシステムを委託します。
- B) 不正解。リテインドケイパビリティとは、戦略、アーキテクチャ、ビジネスエンゲージメントおよびコーポレートガバナンスに関する活動を担当する機能です。
- C) 正解。SIAMエコシステムのサービスインテグレータ階層は、エンドツーエンドサービスのガバナンス、管理、統合、保証、コーディネーションが行われる場所です。（参考文献：A、1.1.1.3章）
- D) 不正解。各サービスプロバイダは、顧客に対して1つ以上のサービス、またはサービス要素を提供する責任を負います。

6 / 40

ある組織がSIAMへの移行を検討しています。サービスプロバイダからサービスインテグレータが偏っている（バイアスがある）と非難される事態を避けたいと考えています。

このような振る舞いが最も起こりにくいのは、どの2つの構造ですか？

答えを2つ選んでください。

- A) 外部サービスインテグレータ
  - B) ハイブリッドサービスインテグレータ
  - C) 内部サービスインテグレータ
  - D) サービスインテグレータとしてのリードサプライヤ
- A) 不正解。サービスインテグレータ兼サービスプロバイダの役割を担う組織は、他のサービスプロバイダの競合となり得るため、偏っている（中立性に欠ける）と受け取られる可能性があります。
- B) 正解。内部サービスインテグレータソリューションでは、サービスインテグレータが顧客組織です。ハイブリッドサービスインテグレータソリューションでは、外部サービスインテグレータが顧客組織と協力します。顧客組織が「中立性に欠ける」と非難される可能性は極めて低いです。したがって、この2つの構造は、移行を希望する組織にとって最適な選択肢となります。（参考文献：A、3.1.2章、3.4.1章）
- C) 正解。内部サービスインテグレータソリューションでは、サービスインテグレータが顧客組織です。ハイブリッドサービスインテグレータソリューションでは、外部サービスインテグレータが顧客組織と協力します。顧客組織が「中立性に欠ける」と非難される可能性は極めて低いです。したがって、この2つの構造は、移行を希望する組織にとって最適な選択肢となります。（参考文献：A、3.1.2章、3.4.1章）
- D) 不正解。サービスインテグレータ兼サービスプロバイダの役割を担う組織は、他のサービスプロバイダの競合となり得るため、偏っている（中立性に欠ける）と受け取られる可能性があります。

7 / 40

ハイブリッド型サービスインテグレータの構造において、コラボレーションしてサービスインテグレータの能力を提供する2つの組織は、次のどれですか？

- A) 顧客組織と外部組織
  - B) 顧客組織と内部サービスインテグレータ
  - C) 外部サービスインテグレータとリードサプライヤ
  - D) 内部サービスインテグレータとリテインドケイパビリティ
- A) 正解。ハイブリッド型サービスインテグレータでは、顧客組織が外部組織とコラボレーションしてサービスインテグレータの役割を担い、サービスインテグレータ能力を提供します。（参考文献：A、3.4章）
- B) 不正解。これらは、SIAMエコシステムにおける2つの異なる階層です。
- C) 不正解。リードサプライヤはハイブリッドとは異なる構造です。
- D) 不正解。これらは、SIAMエコシステムにおける2つの異なる階層です。リテインドケイパビリティは顧客組織の一部です。

8 / 40

SIAMの計画と構築段階を開始する2つのきっかけは何ですか？

答えを2つ選んでください。

- A) サービスインテグレータの任命
  - B) ビジネスケースの概要の承認
  - C) ディスカバリと戦略段階の完了
  - D) 完全なビジネスケースの承認
- A) 不正解。サービスインテグレータの任命は、計画と構築段階における活動であり、この段階を開始させるきっかけではありません。完全なビジネスケースの承認も、計画と構築段階の活動であり、それを開始させるきっかけではありません。
- B) 正解。計画と構築段階は、ディスカバリと戦略段階が完了し、組織がSIAMの実装を進めることを決定したときに、SIAMのビジネス概要の承認を経て開始されます。（参考文献：A、2.2.2章）
- C) 正解。計画と構築段階は、ディスカバリと戦略段階が完了し、組織がSIAMの実装を進めることを決定したときに、SIAMのビジネス概要の承認を経て開始されます。（参考文献：A、2.2.2章）
- D) 不正解。サービスインテグレータの任命は、計画と構築段階における活動であり、この段階を開始させるきっかけではありません。完全なビジネスケースの承認も、計画と構築段階の活動であり、それを開始させるきっかけではありません。

9 / 40

ある顧客組織は実装段階にあり、SIAMモデルの実装を可能な限り短期間に完了したいと考えています。この組織はリスクを取る用意があります。

この目標を達成するために、この顧客組織は何をすべきですか？

- A) サービスプロバイダを早期に指定する
  - B) 組織的なチェンジマネジメント（OCM）を実装する
  - C) ビッグバンアプローチを採用する
  - D) 段階的な実装を用いる
- A) 不正解。これは、SIAMロードマップの計画と構築段階で行われます。この組織はすでに実装段階にあります。
- B) 不正解。OCMは、関係者が変更に対応できるよう準備します。これは、この組織がニーズを満たす上で必要なものではありません。
- C) 正解。ビッグバンアプローチによる実装では、すべてを一度に導入します。高リスクになり得ますが、組織がこのリスクを引き受ける意思があるので、それが最善の対応策です。（参考文献：A、2.3.4.1.1章）
- D) 不正解。段階的アプローチにより、実装にかかる合計時間は延びます。

10 / 40

SIAMの運営と改善段階からの2つのアウトプットは、次のどれですか？

答えを2つ選んでください。

- A) 通常業務レポート
  - B) コミュニケーション計画
  - C) モデルを強化するための情報
  - D) プロジェクトのタイムライン
- A) 正解。運営と改善段階から得られるアウトプットには、レポート、サービスデータ、プロセスデータなど、通常業務のアウトプットが含まれます。アウトプットには、SIAMモデルを進化させ、継続的に改善するために使用される情報も含まれます。（参考文献：A、2.4.5章）
- B) 不正解。コミュニケーション計画とプロジェクトタイムラインはどちらも、具体的にどの段階のアウトプットであるとは言及されていません。
- C) 正解。運営と改善段階から得られるアウトプットには、レポート、サービスデータ、プロセスデータなど、通常業務のアウトプットが含まれます。アウトプットには、SIAMモデルを進化させ、継続的に改善するために使用される情報も含まれます。（参考文献：A、2.4.5章）
- D) 不正解。コミュニケーション計画とプロジェクトタイムラインはどちらも、具体的にどの段階のアウトプットであるとは言及されていません。

11 / 40

役割と責任に関する原則と方針は、SIAMロードマップのどの段階で定義されるべきですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

- A) 正解。これは、ディスカバリと戦略段階における活動の一つです。（参考文献：A、2.1.4.4章）
- B) 不正解。それらはこの段階で実装されますが、ディスカバリと戦略段階で定義されます。
- C) 不正解。詳細な役割と責任は、ディスカバリと戦略段階で定義された原則とポリシーに照らして、この段階で定義されます。
- D) 不正解。それらはこの段階で改善されますが、ディスカバリと戦略段階で定義されます。

12 / 40

利用可能なテクノロジーやサービスについて理解するのは、SIAMロードマップのどの段階ですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

- A) 正解。市場の理解は、ディスカバリと戦略段階での活動です。この活動には、戦略的目標に照らして利用可能なテクノロジーやサービスを評価することも含まれます。（参考文献：A、2.1.4.7章）
- B) 不正解。市場を理解することは、実装段階に進む前に、ディスカバリと戦略段階で行われるべきです。
- C) 不正解。市場を理解することは、計画と構築段階より前に、ディスカバリと戦略段階で行われるべきです。
- D) 不正解。市場の理解は、ディスカバリと戦略段階で行われるべきです。

13 / 40

SIAMモデルの要件設計が含まれるのは、SIAMロードマップのどの2つの段階ですか？

答えを2つ選んでください。

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

- A) 正解。大まかな要件（ハイレベル要件）は第1段階で定義されます。そして、第2段階でさらに具体化されます。（参考文献：A、2章）
- B) 不正解。実装段階では、要件が実装されます。第4段階は、SIAMモデルが運用され、継続的に改善される段階です。
- C) 正解。大まかな要件（ハイレベル要件）は第1段階で定義されます。そして、第2段階でさらに具体化されます。（参考文献：A、2章）
- D) 不正解。実装段階では、要件が実装されます。第4段階は、SIAMモデルが運用され、継続的に改善される段階です。

14 / 40

実装段階を開始する2つのトリガーは、次のどれですか？

答えを2つ選んでください。

- A) 既存のサービスプロバイダの営業停止
- B) 既存のサービスプロバイダの契約終了
- C) 新しいSIAMモデルの実装
- D) 実装アプローチの選択

- A) 正解。既存のサービスプロバイダの営業停止や、既存のサービスプロバイダの契約終了が、実装段階を開始するトリガーとなります。（参考文献：A、2.3.2章）
- B) 正解。既存のサービスプロバイダの営業停止や、既存のサービスプロバイダの契約終了が、実装段階を開始するトリガーとなります。（参考文献：A、2.3.2章）
- C) 不正解。新しいSIAMモデルの実装は、実装段階の活動であり、運営と改善段階を開始するトリガーとなります。実装アプローチの選択は、実装段階における活動です。
- D) 不正解。新しいSIAMモデルの実装は、実装段階の活動であり、運営と改善段階を開始するトリガーとなります。実装アプローチの選択は、実装段階における活動です。

15 / 40

組織的なチェンジマネジメント（OCM）を開始するのは、SIAMロードマップのどの段階ですか？

- A) ディスカバリと戦略
- B) 実装
- C) 計画と構築
- D) 運営と改善

- A) 不正解。OCMは、SIAMロードマップの計画と構築段階まで開始されません。
- B) 不正解。OCMはロードマップの計画と構築段階から始まります。そして、実装段階を経て次の段階へと続きます。
- C) 正解。OCMの開始は、SIAMロードマップにおける計画と構築段階の目的、活動、アウトプットです。  
(参考文献：A、2.2.4.3章)
- D) 不正解。OCMはロードマップの計画と構築段階から始まります。そして、実装段階、運営と改善段階へと続きます。

16 / 40

あるホスティングサービスのプロバイダは、エンドツーエンドの全サービスに影響を及ぼすインシデントを繰り返し経験しました。サービスインテグレータによって、他のサービスプロバイダの情報を活用できるようになり、このプロバイダは根本原因を恒久的に解決するイノベーションを開発できました。

この成果に対して報われるのは誰ですか？

- A) すべてのサービスプロバイダとサービスインテグレータ
- B) すべてのサービスプロバイダ（サービスインテグレータは除く）
- C) ホスティングサービスのプロバイダのみ
- D) サービスインテグレータのみ

- A) 正解。サービスプロバイダは、自社の利益を守るのではなく、コラボレーションするよう奨励されるべきです。報酬の仕組みを活用することで、コラボレーションとコミュニケーションを奨励できます。優れた実践手法には、SIAMモデルの1つの階層だけでなく、すべての関係者に報いることが含まれます。(参考文献：A、2.4.4.2章)
- B) 不正解。サービスインテグレータが関与しており、報酬を与えられるべきです。
- C) 不正解。他のサービスプロバイダが情報を提供し、サービスインテグレータは支援しました。従って、これらの当事者も報酬を与えられるべきです。
- D) 不正解。サービスプロバイダは情報を提供したので、それに対する報酬を与えられるべきです。

17 / 40

サービスガバナンスと保証に対して（最終的な）責任を負うのは、通常どのSIAMの役割ですか？

- A) 顧客組織
  - B) 統合変更諮問委員会
  - C) サービスインテグレータ
  - D) サービスプロバイダ
- A) 不正解。顧客はサービスのガバナンスと保証に責任を負いません。これはサービスインテグレータの責任です。
- B) 不正解。統合変更諮問委員会は、変更の保証に関する責任を負いますが、サービスのガバナンスと保証に関する責任を負いません。
- C) 正解。サービスのガバナンスと保証は、サービスインテグレータの重要な責務の一つです。（参考文献：A、4.1.3章および4.4章）
- D) 不正解。SIAMエコシステム内では、サービスプロバイダはサービスのガバナンスと保証の責任を負いません。

18 / 40

SIAMモデルのどの役割を外部調達するのかを決めるのは誰ですか？

- A) 顧客組織
  - B) 外部サービスプロバイダ
  - C) 内部サービスプロバイダ
  - D) サービスインテグレータ
- A) 正解。顧客組織は、外部サービスインテグレータから助言を受けることはあっても、意思決定は顧客組織の責任です。なぜなら、その成果に対する説明責任を負うのは顧客組織であるからです。（参考文献：A、4.1.1章）
- B) 不正解。外部のサービスプロバイダがこの決定を下すことはありません。
- C) 不正解。内部サービスプロバイダがこの決定を下すことはありません。
- D) 不正解。サービスインテグレータが顧客に助言することはあっても、意思決定を下すのは顧客組織です。

19 / 40

契約管理に対して説明責任を負うのは、どの役割ですか？

- A) 顧客組織
- B) 取締役会
- C) サービスインテグレータ
- D) 戦術委員会

- A) 正解。顧客組織は外部組織との契約当事者であり、したがってその管理について説明責任を負います。（参考文献：A、4.3章）
- B) 不正解。取締役会は契約管理に関する問題を議論できますが、契約管理に対する説明責任は負いません。
- C) 不正解。サービスインテグレータは、顧客組織から委譲された契約管理業務の遂行に責任を負うことはできますが、外部組織との契約当事者は顧客組織であるため、契約管理の説明責任は常に顧客組織にあります。
- D) 不正解。戦術委員会は契約管理に関する問題を議論できますが、契約管理に対する説明責任は負いません。

20 / 40

単一の構造要素が対応するのは、何ですか？

- A) 1つの組織に1つの階層
- B) 複数の組織における1つの階層
- C) 1つの組織における複数の階層
- D) 複数の組織における複数の階層

- A) 不正解。構成要素は、SIAMエコシステムの3つの階層すべてにまたがる可能性があります。また、例えば複数のサービスプロバイダーなど、複数の組織にまたがる場合もあります。
- B) 不正解。構成要素は、SIAMエコシステムの3つの階層すべてにまたがる可能性があります。
- C) 不正解。複数のサービスプロバイダーなど、複数の組織にまたがる場合もあります。
- D) 正解。構造要素とは、特定の責任を担い、SIAMエコシステム内の複数の組織や階層にまたがって活動する協働的なエンティティ（または協働的な組織体）です。（参考文献：A、1.1.5章）

21 / 40

重大インシデントの解決から得られた教訓について話し合う責任を負う運用上の役割はどれですか？

- A) インシデント管理プロセスフォーラム
- B) インシデント管理ワーキンググループ
- C) 統合変更諮問委員会
- D) 重大インシデントワーキンググループ

- A) 正解。インシデント管理プロセスフォーラムでは、継続的な改善の一環として、得られた教訓について話し合われます。（参考文献：A、4.7.3章）
- B) 不正解。すべてのワーキンググループは、特定の問題に取り組むために招集されます。フォーラムは改善に取り組みます。
- C) 不正解。統合変更諮問委員会は、運用ガバナンス委員会であり、業務上の役割ではありません。
- D) 不正解。すべてのワーキンググループは、特定の問題に取り組むために招集されます。フォーラムは改善に取り組みます。

22 / 40

機能横断型チームの管理に関する主な課題は、次のどれですか？

- A) 相反する目標、組織戦略、作業の進め方
- B) プロセス活動間のギャップ
- C) エンドツーエンドのワークフローをマッピングできない
- D) アーキテクチャの欠如

- A) 正解。目標、組織戦略、作業の進め方が相反することは、機能横断型チームに関連する主な課題の一つです。（参考文献：A、5.1.2章）
- B) 不正解。これは、サービスプロバイダ間のプロセスの統合に関連する課題です。
- C) 不正解。これは、エンドツーエンドサービスの実現と報告に伴う課題です。
- D) 不正解。これは、ツール戦略の策定に伴う課題です。

23 / 40

機能横断型チームを管理するときコミュニケーション計画が提供するのは何ですか？

- A) すべての関係者に対する適切なレベルの定期的なコミュニケーション
  - B) 仮想チーム間の対面ミーティングが不要になる
  - C) データの再入力と変換の必要性の減少
- A) 正解。コミュニケーション計画は、すべての関係者に対して適切なレベルの定期的コミュニケーション（会議やさまざまなレベルの報告など）を確保するための鍵となります。（参考文献：A、5.1.3.4章）
- B) 不正解。仮想チームは、チームメンバー間の関係を構築する必要があります。定期的に顔を合わせる事がなければ、これを実現するのは容易ではありません。チームメンバーがお互いを知り、信頼関係を育み、良好な職場関係を構築するために、対面イベントを少なくとも1回は開催することが推奨されます。
- C) 不正解。これは、ツールセット統合のプラクティスによって得られるベネフィットです。

24 / 40

サービスプロバイダ間でプロセスを統合する場合、プロセスフローのギャップを特定し、回避するために何を使用しますか？

- A) DevOps
  - B) 重要業績評価指標（KPI）
  - C) RACIマトリクス
  - D) サービスレベルアグリーメント（SLA）
- A) 不正解。DevOpsは支援のための実践手法ではありますが、プロセスや機能のデリバリーにおけるすべての参加者を特定するために使用されるものではありません。
- B) 不正解。KPIはパフォーマンスを測定するための測定基準です。KPIは、サービス、プロセス、ビジネス目標に対して定義されます。
- C) 正解。プロセスフローとRACIマトリクスの作成と合意は、ギャップの特定と回避に役立ちます。（参考文献：A、5.2.2.2章）
- D) 不正解。SLAは、プロセスフローにおけるギャップの特定に使用されることはありません。

25 / 40

SIAMエコシステムにおけるエンドツーエンドの測定の例は、次のどれですか？

- A) 特定のサービスインテグレーションパートナーによる問題解決までの平均時間
  - B) 内部サービスプロバイダと外部サービスプロバイダの比較
  - C) 特定の事業部門から報告されたインシデントの件数
  - D) サービスレベル目標に対するサービスの対応の速さ
- A) 不正解。エンドツーエンドの測定は、サービス全体に関するものであり、特定のコンポーネントやサービスプロバイダに関するものではありません。
- B) 不正解。エンドツーエンドの測定はサービスに関するものであり、サービスプロバイダのパフォーマンスに関するものではありません。
- C) 不正解。インシデントがサービスに与える影響はエンドツーエンドの測定となる可能性があります。インシデントの件数だけでは、ビジネス目標に対してサービスがどのように提供されたかを反映していないため、エンドツーエンドの測定とはなりません。
- D) 正解。定義された目標に対するサービスの対応の速さは、SIAM環境におけるエンドツーエンド測定の一例です。（参考文献：A、5.3.1章）

26 / 40

ツール戦略の策定については、いくつかの推奨事項があります。

サービスインテグレータとサービスプロバイダが、SIAMツールセットを進化させる方法を理解するのに役立つのは何ですか？

- A) 共通のデータディクショナリの採用
  - B) 業界標準の方法
  - C) データとツールセットの所有権
  - D) テクノロジー戦略とロードマップ
- A) 不正解。これにより、インシデントの優先度や重大度の分類に一貫性を持たせ、共通の理解を得ることができるなど、いくつかのベネフィットがもたらされます。SIAMツールセットがどのように進化していくかを理解する助けにはなりません。
- B) 不正解。業界標準の統合方法を用いることで、サービスプロバイダは、自身のツールと統合されたSIAMツールセットの間で情報を共有しやすくなります。SIAMツールセットがどのように進化していくかを理解する助けにはなりません。
- C) 不正解。ツール戦略では、ツールセットとその中のデータの所有権を明確にする必要があります。SIAMツールセットがどのように進化していくかを理解する助けにはなりません。
- D) 正解。顧客組織は、サービスインテグレータとサービスプロバイダがSIAMツールセットがどのように統合され、進化していくかを理解できるように、テクノロジー戦略とロードマップの概要を説明する必要があります。（参考文献：A、5.4.3.1章）

27 / 40

ツール戦略を策定する場合の技術的プラクティスに関連する課題ではないのは、次のどれですか？

- A) プロセス活動間のギャップ
- B) 効果が低いレガシーツール
- C) 統合されていないツールセット
- D) ツールセットの範囲の定義

- A) 正解。これは、ツール戦略の策定に関連する課題ではありません。これは、サービスプロバイダ間のプロセスの統合に関連する課題の一つです。課題は、効果が低いレガシーツール、ツールセットの範囲の定義、統合されていないツールセット、アーキテクチャの欠如です。（参考文献：A、5.4.2章）
- B) 不正解。これは、ツール戦略の策定に関する課題の一つです。
- C) 不正解。これは、ツール戦略の策定に関する課題の一つです。
- D) 不正解。これは、ツール戦略の策定に関する課題の一つです。

28 / 40

SIAMと他のサービスマネジメントプロセスはどのように関連していますか？

- A) 他のサービスマネジメントプロセスの成果は、SIAMプロセスの成果とは異なり、別の洞察を提供する。
  - B) 他のサービスマネジメントプロセスは、適応させることなくSIAMエコシステムで使用できる。
  - C) SIAMは、他のサービスマネジメントの要素を基礎として構築され、それらを拡張するものである。
  - D) SIAMは他のサービスマネジメントプラクティスに代わるものであるため、そのプロセスは一切使用しない。
- A) 不正解。ほとんどのSIAMプロセスは、他のサービスマネジメントプロセスと同じ成果をもたらします。
  - B) 不正解。その他のサービスマネジメントプロセスも、複数のサプライヤエコシステムに適応させる必要があります。
  - C) 正解。SIAMは他のサービスマネジメントプラクティスに取って代わるものではありませんが、サービスマネジメントの要素を基盤として構築され、SIAMモデルに関連するエコシステム全体に拡張するものです。（参考文献：A、5.1.1章）
  - D) 不正解。SIAMは、他のサービスマネジメントプラクティスに取って代わるものではありませんが、それらの要素を基盤として使用することができます。

29 / 40

SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通する検討事項は、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダ全体での解決目標の調整
  - B) プロセスがより複雑に見える 可能性がある
  - C) データディクショナリ、用語、しきい値の要件
- A) 不正解。これは問題管理に関するSIAMの検討事項です。
- B) 正解。これは、SIAMエコシステム内のすべてのプロセスに共通する、SIAMの妥当な検討事項です。  
(参考文献：B、3.1章)
- C) 不正解。これは、監視とイベント管理に関するSIAMの検討事項です。

30 / 40

SIAMエコシステムの中でプロセスが通常実行される、最も包括的な範囲は何ですか？

- A) サービスインテグレータと顧客組織の契約で定義された組織のすべての部分にまたがる
  - B) 同じSIAM階層の異なる組織間、および異なるSIAM階層の組織間
  - C) エコシステム内の各サービスプロバイダのそれぞれの部門内
  - D) 社内のIT部門内、および外部サービスプロバイダのIT部門間
- A) 不正解。SIAMプロセスは、サービスプロバイダの組織の一部でも運用されます。
- B) 正解。SIAMエコシステム内のプロセスは、同じSIAM階層の異なる組織間や異なるSIAM階層の組織間で実行され、エコシステム全体のコーディネーションを可能にします。(参考文献：B、2.4章)
- C) 不正解。SIAMプロセスは、サービスプロバイダだけに限定されるのではなく、複数の組織や階層にまたがって運用されます。
- D) 不正解。これは、限定的な範囲について説明しており、エコシステム全体でSIAMプロセスが実行されるという包括的な性質を反映していません。

31 / 40

変更およびリリース管理プロセスの適切な連携ポイントは、何ですか？

- A) このプロセスは、新しいリリースによってインシデントが発生した場合、構成管理プロセスと連動する。
  - B) このプロセスは、既知のエラーが発生し、修正が必要な場合に、インシデント管理プロセスと連携する。
  - C) このプロセスは、リリースの監視が必要な場合に、監視とイベント管理のプロセスと連携する。
  - D) このプロセスは、大きな変更によって正式なプロジェクト管理活動が必要となる場合にプロジェクト管理プロセスと連携する。
- 
- A) 不正解。これは、変更／リリース管理プロセスとインシデント管理プロセスとの連携ポイントです。
  - B) 不正解。これは、問題管理プロセスと変更／リリース管理プロセスとの連携ポイントです。
  - C) 不正解。監視とイベント管理プロセスとの連携ポイントは、定義されたケースによっては、インシデントの発生を未然に防ぐため、特定のイベントをトリガーとして標準的な変更が行われる点にあります。逆に、イベントはリリースの検出に使うことができます。
  - D) 正解。プロジェクト管理プロセスと変更およびリリース管理プロセスの連携ポイントは、（大きな変更やリリースが正式なプロジェクト管理活動を必要とする場合です（すべてのプロジェクトは変更ではありませんが、すべての変更がプロジェクトではありません））。（参考文献：B、5.8.6章）

32 / 40

継続的サービス改善プロセスの目的は、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダが継続的サービス改善に貢献することを奨励し、インセンティブを与えること
  - B) 継続的サービス改善がSIAMガバナンス委員会の議題に含まれるようにすること
  - C) 改善活動のデリバリーを定量化、追跡、管理する一貫した方法を提供すること
  - D) SIAMエコシステムのすべての関係者が得た教訓を共有すること
- 
- A) 不正解。これは、継続的サービス改善プロセスにおけるSIAMの検討事項の一つです。
  - B) 不正解。これは、継続的サービス改善プロセスにおけるSIAMの検討事項の一つです。
  - C) 正解。これが継続的サービス改善プロセスの目的です。（参考文献：B、5.2.1章）
  - D) 不正解。これは、継続的サービス改善プロセスにおけるSIAMの検討事項の一つです。

33 / 40

SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通するSIAMの検討事項は、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダとそのサービスの消費者との間に強固な関係を築き、維持すること
  - B) プロセスのオーナーシップ、および説明責任と実行責任のレベルを明確化すること
  - C) 改善活動のデリバリーを定量化、追跡、管理する一貫した方法を提供すること
  - D) プロジェクトを期限内、予算内、そして適切かつ合意された品質レベルで完了させるための体系的アプローチを提供すること
- A) 不正解。これは事業関係管理プロセスの目的であり、SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通する検討事項ではありません。
  - B) 正解。これは、SIAMエコシステム内のすべてのプロセスに共通する、正しい検討事項です。（参考文献：B、3.2章）
  - C) 不正解。これは、継続的サービス改善プロセスの目的であり、SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通する検討事項ではありません。
  - D) 不正解。これはプロジェクト管理プロセスの目的であり、SIAMエコシステムのすべてのプロセスに共通する検討事項ではありません。

34 / 40

SIAM環境における関係者間で、より強固な関係を構築するのに役立つ戦略は、次のどれですか？

- A) サービスインテグレータに向けた標準化されたエスカレーションパスの作成
  - B) 委員会やフォーラムなどのSIAMの構造要素の確立
  - C) 顧客組織とサービスインテグレータの双方からの中央コントロールの取得
  - D) サービスプロバイダからの月次財務報告の義務付け
- A) 不正解。サービスプロバイダ間の関係も強化されるべきです。
  - B) 正解。委員会、フォーラム、ワーキンググループといったSIAMの構造要素を確立することは、SIAM環境における関係者間の関係を構築し、文化を強化するのに役立ちます。（参考文献：A、7.5.4章）
  - C) 不正解。これはリスクと見なされる可能性があります。また、サービスインテグレータや顧客組織が独裁的な振る舞いをするにつながりかねません。
  - D) 不正解。財務報告の要件は商業的な監督には対応しますが、関係者間の関係構築には寄与しません。

35 / 40

SIAMの成功を測定するときの課題によって影響を受けないSIAM階層は、次のどれですか？

- A) 顧客組織
  - B) サービスインテグレータ
  - C) サービスプロバイダ
- A) 不正解。この課題は、「SIAMが価値を提供し、サービスが機能しているかどうか」を検証できない顧客組織や、エンドツーエンドのレポートを作成するタスクを担うサービスインテグレータに影響を与えます。
- B) 不正解。この課題は、エンドツーエンドレポートの作成というタスクを担うサービスインテグレータに影響を与えます。
- C) 正解。この課題は、「SIAMが価値を提供し、サービスが機能しているかどうか」を検証できない顧客や、エンドツーエンドのレポートを作成するタスクを担うサービスインテグレータに影響を与えます。（参考文献：A、7.6.1章）

36 / 40

ある顧客組織は、データフローとエンドツーエンドのサービスをマッピングすることができず、SIAMエコシステムにおけるセキュリティ範囲を把握できていません。

この問題に直接関係するリスクは、次のどれですか？

- A) サービスプロバイダは、権限のないデータにアクセスできる可能性がある。
  - B) サービスプロバイダはサービス目標を達成できない可能性がある。
  - C) SIAMの導入コストが計画よりも高くなる可能性がある。
  - D) サービスインテグレータの作業負荷が増加する可能性がある。
- A) 正解。顧客組織は、エコシステム内にどのようなデータと情報が存在し、それがどこにあり、どのように管理・保護されるのかを明確にしなければなりません。効果的でないデータ分離（特に、他のサービスプロバイダに表示してはいけないサービスプロバイダの商業上の機密データに関するデータ分離）は、関連するリスクです。（参考文献：A、7.4.3章）
- B) 不正解。これは商業上の課題に伴うリスクです。
- C) 不正解。これは、ビジネスケースの構築に伴うリスクです。
- D) 不正解。これはレガシー契約に伴うリスクです。

37 / 40

顧客組織が保持すべきコントロールとオーナーシップのレベルを定義することは重要です。

これらを決定しないままにするリスクは、次のどれですか？

- A) サービスの障害に対する責任を割り当てるのが難しくなる。
  - B) サービスプロバイダがコラボレーションを渋る可能性がある。
  - C) サービスインテグレータがその役割を果たせない可能性がある。
  - D) SIAMプログラムの成功を測定することができない。
- 
- A) 不正解。これは商業上の課題から生まれるリスクです。
  - B) 不正解。これは文化とコラボレーションという課題から生まれるリスクです。
  - C) 正解。コントロールとオーナーシップのレベルが明確に定義されていない場合、説明責任と実行責任が不明確であるため、SIAMモデルの定義、サービスインテグレータとサービスプロバイダの役割がより困難なものになる可能性があります。顧客組織がサービスの活動とプロセスのオーナーシップを放棄する用意がない場合、サービスインテグレータがその役割を果たせない可能性があるため、SIAMに期待されるベネフィットを実現できない可能性があります。（参考文献：A、7.2.3章）
  - D) 不正解。これは、ビジネスケースの構築という課題から生じるリスクです。

38 / 40

ある顧客組織が、サービスプロバイダに対して非現実的なサービスレベルを設定しています。

これに直接関連するリスクは、次のどれですか？

- A) サービスの障害に対する責任を確保することは難しいかもしれない。
  - B) 顧客のデータが危険にさらされる可能性がある。
  - C) サービスインテグレータがその役割を果たせない可能性がある。
  - D) サービスプロバイダがエコシステムから撤退する可能性がある。
- 
- A) 不正解。これは別の商業的リスクです。
  - B) 不正解。これはコントロールとオーナーシップのレベルに関連するリスクです。
  - C) 不正解。これは文化の適合性に関連するリスクです。
  - D) 正解。サービスプロバイダにとって非現実的な目標やサービスレベルは、エコシステムからのサービスプロバイダの撤退を招く可能性があります。（参考文献：A、7.3.3章）

39 / 40

SIAMエコシステムにおいて、サービスプロバイダは新しい働き方に適応する必要があります。

これに関連する文化的な検討事項は、次のどれですか？

- A) 契約と合意を重視するサービスプロバイダのための環境を構築すること
  - B) 「サービスインテグレータが指示を出し、意思決定を行い、ガバナンスする自律性を有している」という事実をサービスプロバイダが認識すること
  - C) 特定のサービスレベルと目標の達成に注力するサービスプロバイダ
- 正解はBです。
- A) 不正解。関連のある正しい検討事項は、個々のサービスプロバイダの契約や合意ではなく、ビジネス成果と顧客に焦点を当てた環境を構築することです。
  - B) 正解。サービスプロバイダは、サービスインテグレータが顧客の代弁者であり、その役割を妨げられることなく指示を出し、意思決定を行い、ガバナンスする自律性を有していることを認める必要があります。（参考文献：A、6.2.1章）
  - C) 不正解。SIAMエコシステムの中では、個々の組織のサービスレベルや目標の達成よりも、関係性（特にプロバイダ間の関係）、ガバナンスコントロール、共通の目標の追求に重点が置かれます。

40 / 40

SIAMロードマップの中で、ビジネスケースを構築するという課題による影響を最も早く受ける段階は、次のどれですか？

- A) ディスカバリと戦略
  - B) 実装
  - C) 計画と構築
  - D) 運営と改善
- 正解はAです。
- A) 正解。この課題は、SIAMロードマップの初期段階、つまりディスカバリと戦略段階から始まります。（参考文献：A、7.1.2章）
  - B) 不正解。このビジネスケースは、期待されるベネフィットが実現していることを検証するために、実装段階と運営と改善段階でも使用されますが、これは最も早い段階ではありません。
  - C) 不正解。計画と構築段階が終了した時点で、調達の承認と残りの段階へのリソース確保を行うために、経営陣の後押しが必要となりますが、これは最も早い段階ではありません。
  - D) 不正解。このビジネスケースは、期待されるベネフィットが実現していることを検証するために、実装段階と運営と改善段階でも使用されますが、これは最も早い段階ではありません。

## 評価

次の表に、本模擬試験問題の正解を示します。

番号	正解	番号	正解
1	B	21	A
2	A	22	A
3	B	23	A
4	A	24	C
5	C	25	D
6	B & C	26	D
7	A	27	A
8	B & C	28	C
9	C	29	B
10	A & C	30	B
11	A	31	D
12	A	32	C
13	A & C	33	B
14	A & B	34	B
15	C	35	C
16	A	36	A
17	C	37	C
18	A	38	D
19	A	39	B
20	D	40	A



Certified for what's next

EXIN の連絡先

[www.exin.com](http://www.exin.com)

